

2005 FJ1600 鈴鹿シリーズ

■12月9日 金曜日 Dry フリー走行

前回のレースは自分のミスからペナルティーを受け、ポイントを取ることが出来ないという情けない結果で終わった事で、今回はただ「勝つ」ということに全神経を集中させて挑みました。JAF シリーズチャンピオンのポイント的にも前回のレース結果から 5 ポイント差でトップを追う側となり、嫌でも気合が入ります。そんな中始まったフリー走行では前回までのレースと違い、気温、路面温度とも物凄く低い為、タイヤが温まるまでにかなりの時間がかかりました。周りでは走り初め直後のコースアウトやクラッシュが相次ぐ中、自分は「何周でタイヤが温まり、どのくらいから通常時の制動距離で止まれるか？」などしっかり感じながら走行し、午前中は 2 本ともトップタイムを記録することが出来ました。午後からは予選用タイヤの皮むきをしたり、予選を想定していい状態のタイヤで走行したりしていたのですが、S 字コーナーなどで自分が思うようなラインに車をのせることが出来ません。そこで、セッティングを変更しながら乗っていたのですが、中々思うようにセッティングが出来ないままこの日の走行を終えてしまいました。走行後は車の動きを思い出し、過去のデータなどからも考えて、服部さん、チーム監督の館さん、メカニックの方たちと話し合っただけで次の日の走行メニューを考え、この日は終わりました。

■12月10日 土曜日 Dry フリー走行

この日は予選の前に 20 分間のフリー走行が設けてあり、昨日考えたメニューで走行しました。何回かセッティングチェンジしながら走った結果、タイム的には 2 番手だったのでセッティング的には昨日悩んでいた S 字コーナーなどでもいいフィーリングになり、予選に向けて車、気持ちともにいい状態で挑むことが出来ました

■12月10日 土曜日 Dry 公式予選

気温も徐々に上がってきたお昼過ぎ、20 分間の公式予選がスタートしました。今回は台数も多くクリアでアタック出来るかが大事だなと思い、出来るだけ前の方から走り始めました。まずはスリップなど気にせず単独で走り始め、計測 2 周目でトップに躍り出ます。しかし、そのアタックしていた周に自分のスリップを使われ 2 番手に。その後、前を走っていた選手のスリップを使いアタックしたのですが、相手との間隔が難しく、自分の速いこと相手のスリップを使いたいところが噛み合わず、中々タイムを上げる事が出来ません。そこで、少し落ち着き、単独で再度アタックしました。そして少しづつタイムも上がり、前の選手との距離が 5、60 メートルになったとき、自分の得意なコーナーはクリアで走れ、なおかつスリップを使いたいことも、少し距離は遠かったのですがビヨーンにスリップが効き、1 年間で 1 番いいアタックが出来たと思います。その結果 2 番手に約 0.6 秒の差をつけて、今年 4 回目のポールポジションを獲得することが出来ました。今回の予選は自分とチャンピオン争いをしている選手と一緒に走り、ポールを取っていたのですが、気持ち的にはその人より速く走れたことが物凄く嬉しかったです。けれど一緒に走ったことで、相手の速いことなどもわかったのですが、逆に自分の得意なことなども全部知られてしまったと思

うし、こういうことで決勝レースでの組み立て方なども決められると思うので、これからは少なからずこういうことも頭に入れて予選など走れたらと思います。

■12月11日 日曜日 Dry 決勝

この日は朝から曇り空で時折雨もちらつくようなビヨーンな天気でした。自分としては Wet コンディションの方がよかったのですが、FJ1600 の決勝に近づくにつれ雨もやみ、路面状況も次第に Dry へと変わって行きました。けれど、自分としてはどんなコ

ンディションでも勝つことしか考えてなかったのも、すぐに気持ちを入れ替えレースに集中します。けれど、この日は決勝時間が早かったこともあり気温、路面温度ともにかなり低い状態で、グリッドへの試走の段階でスピンする車が相次ぎます。こういう状態の中フォーメーションが始まり、いかに早くタイヤを温められるかがポイントだなと思

ひ、いつもに増して入念にタイヤを温めます。

そして、シグナル・レッド、消灯、スタート。

クラッチをつなぐのが慎重になりすぎ、若干出遅れたのですがそのままトップで 1 コーナーへ。そのまま一気に 2 位以下を引き離そうとするのですが西側でどうしても追いつ

かれず。そこからはチャンピオン争いをしている 2 人で 3 位以下を引き離し

ながら、毎週順位を入れ替え、お互い相手を探り合います。自分が抜けるのは得意な 130R しかなく、そこから一気に引き離そうとプッシュするのですが、やはり相手の速い西側で追いつかれバックストレートで抜き返されるの繰り返しでした。レース

も中盤に入り、相手の選手は仕掛けるタイミングを決めたく、ストレートで僕を抜けるにもかかわらず、わざと後ろから様子を見ています。僕はこの間に引き離さなければいけないのですが、ストレートはある程度離れていてもスリップが効く為、どうしてもそれが出来ません。そして、そんな状態が続く中、自分がトップのままいよいよファイナルラップに突入します。相手の選手は自分をバックストレートで交わしてそのまま逃げ切るつもりだったと思うのですが、自分も「130R からシケインのブレーキングでしか、仕掛けるチャンスはない。」と感じていたため、スプーンを立ち上がる時に、どうしても相手選手の後ろにいななければなりません。そこで自分がとった行動はヘアピンからの立ち上がりで相手を先に行かせるというものでした。そして自分が後ろのままスプーン 2 個目をキッチリ立ち上がろうと思ったのですが、リアを滑らしてしまい、少し離されてしまいました。けれどその距離は充分シケインで刺せる距離だったので、諦めず 130R を最高の状態でクリアします。130R

を立ち上がり、相手がインをグッチリ開けているのを確認してマシンをアウト側に振ると、案の定相手もアウト側へ。そして相手がアウト側にマシンを振り、イン側にスペースが空いた瞬間、自分はマシンをイン側に滑り込ませます。しかし、相手はもう一度イン側にマシンを寄せてきて接触……。お互いのフロントタイヤ同士が引っかかりコントロール出来ないまま、シケインまで滑って行きそこで離れたのですが、自分のマシンは加速できず最終コーナー立ち上がったところで相手選手にパスされて行きました。結局 3 位グループは引き離していたので、ギリギリのところでどうにか 2 位チェッカーを受けることが出来ました。この後はチャンピオンを取れなかった事より、自分の全てを出しきろうと決めたこのレースで勝てなかった悔しさと、いろんなことに対する怒りで胸がいっぱいでした。

この結果から、鈴鹿クラブマンシリーズは チャンピオン獲得

JAF 地方選手権・鈴鹿シリーズは ランキング 2 位という結果で 2005 年のシリーズを終えました。

先ずは、シリーズを通して沢山のスポンサー様やレース関係者、チームオーナーや監督、そしてメカニックの方々など、その他にも沢山の方たちのおかげで一年間レースをさせてもらえることができ、本当にありがとうございました。この結果については「チャンピオンを取る」という目標でやってきた自分はもちろん、応援していただいた皆様にも納得できない結果だと思うし、申し訳なかったと思います。

今回のレースを振り返って、やっぱり自分は、相手選手のあの行為はやってはいけないものだと思います。けれどこういう状況になる前にシーズン全体を通してや今回のレースだけを見ても、自分がチャンピオンになるチャンスを、自分のミスでいっぱい不意にしてきたなと思います。そして、そういうミスもそうですが、相手がどうこうより、相手に左右されないようなブッチギれるレースをするだけの力が自分になかったんだと感じました。けれど、12月25日にある「日本一決定戦」では、今回の結果からシードを取ることは出来なかったのですが、本当に人生をかけるくらいの気持ちで自分の全てを出しきって勝ちに行きます。このようなレースを目指し、これからは速さはもちろん、人としても成長出来る様に今まで以上に努力して行きますので、これからも引き続きご指導、応援よろしくお願いします。